

「校際傑出學術論文授權暨發表會」

論文摘要表

| | |
|-----------------------------------|-------------------|
| 研究生(中文姓名) | 郭慈津 |
| 研究生(英文姓名) | TSZ CHIN KUO |
| 論文名稱 | 接續助詞「TO」的從屬度 |
| 英文論文名稱 | 接續助詞「ト」についての從屬度 |
| 指導教授 | 陳志文 |
| 指導教授(英文姓名) | |
| 學位類別 | 碩士 |
| 校院名稱 | 南台科技大學 |
| 系所名稱 | 應用日語系 |
| 學年度 | |
| 語文別 | 日文 |
| 中文關鍵詞 | TO，接續助詞，非假定用法，從屬度 |
| 外文關鍵詞 | ト、接續助詞、非假定用法、從屬度 |
| 要 旨 | |
| 「P-Vと、Q-V」の形式で表される条件文の担う意味が様々であり、 | |

このうち、前件・後件が未実現の事態を予想された仮定用法と事態が実際に起こった非仮定用法を大別に分けられている。「バ」「タラ」「ナラ」に比べて、「ト」の本質は現実に観察された事態を表すから、仮定用法より非仮定用法が注目されている。「ト」の非仮定用法について、豊田豊子(1978)(1979a)(1979b)(1982)(1983)の「接続助詞「と」の用法と機能(I)～(V)」では、前件の動作・作用と後件の動作・作用との関係により、「連続」「発見」「時」「きっかけ」「因果」の5種類に分けられている。このような分類では、いくつタイプがある。しかし、各々のタイプの間、どのような繋がりがあるかは明らかにしていない。本研究では、「ト」におけるそれぞれタイプの前件・後件の関連性と従属度を解明することを研究目的とする。

研究方法について、主体を加えて考え、主体が前件・後件の動詞との相互関係を考察し、それぞれのタイプの条件を確認する。そして、各々のタイプの繋がり条件を分析していくことを通して、「ト」の従属の度合いを明らかにすることとする。

「連続」「発見」「時」「きっかけ」「因果」の用法における前件が後件に対する関連関係を10つのタイプに分類した。研究結果として、その分類から前件が後件に対しての従属度は、「因果」→「きっかけ」③→「連続」→「きっかけ」②→「きっかけ」①→「きっかけ」④→「発見」①→「発見」②→「時」① 矢印の順のように低くなるという結果を得た。

摘要

在條件文「P－V TO、Q－V」的形式中表示各式各樣的意思，大致上可分為預測未發生事情的假定用法和實際已發生的非假定用法。和「BA」「TARA」「NARA」比起來，「TO」的本質是觀察實際發生的事情，所以非假定用法比假定用法更受到注目。豊田豊子(1978)(1979a)(1979b)(1982)(1983)「接續助詞「TO」的用法和機能(I)～(V)」的研究裡，依據前句和後句關係將「TO」的假定用

法分成「連續」「發現」「時」「KIKKAKE」「因果」五類。在這五類裡可細分其它類型，但是在這些類型裡前後的連繫關係尚未清楚。闡明「TO」各類型的前後關連性和從屬度為本研究的研究目的。

本研究採用的研究方法為考察主題及主題和前後動詞之間的關係，確認各類型的條件，並透過各類型條件的分析來確定「TO」的從屬度。

依據前後對應關係可將「連續」「發現」「時」「KIKKAKE」「因果」分成 10 種類型。透過研究分析，這 10 種類型裡的從屬度如下，「因果」→「KIKKAKE」③→「連續」→「KIKKAKE」②→「KIKKAKE」①→「KIKKAKE」④→「發現」①→「發現」②→「時」①，從屬度依箭頭逐漸降低。